



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年8月1日

上場会社名 株式会社 デサント 上場取引所 東
 コード番号 8114 URL http://www.descente.co.jp
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 石本 雅敏
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 (氏名) 辻本 謙一 (TEL) 06-6774-0365
 四半期報告書提出予定日 平成30年8月9日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績(平成30年4月1日~平成30年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	30,776	2.0	1,116	13.6	1,196	11.9	975	27.6
30年3月期第1四半期	30,180	8.0	982	△25.2	1,068	△24.0	764	△26.9

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 △1,306百万円(—%) 30年3月期第1四半期 2,041百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	12.94	—
30年3月期第1四半期	10.14	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	109,386	75,835	69.3
30年3月期	117,141	78,875	67.3

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 75,835百万円 30年3月期 78,875百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	—	0.00	—	23.00	23.00
31年3月期	—	—	—	—	—
31年3月期(予想)	—	0.00	—	26.00	26.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成31年3月期の連結業績予想(平成30年4月1日~平成31年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	70,000	6.1	3,100	△8.8	3,300	△5.8	2,200	△9.9	29.19
通期	148,000	4.9	9,600	0.0	10,000	3.1	6,500	12.6	86.24

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
 (注) 詳細は、添付資料8ページ「(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
 ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年3月期1Q	76,924,176株	30年3月期	76,924,176株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	1,551,380株	30年3月期	1,551,380株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年3月期1Q	75,372,796株	30年3月期1Q	75,337,372株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信【添付資料】3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9
(追加情報)	9
3. 補足情報	10
海外売上高	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間の売上高は30,776百万円（前年同四半期比2.0%増）、営業利益は1,116百万円（前年同四半期比13.6%増）、経常利益は1,196百万円（前年同四半期比11.9%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は975百万円（前年同四半期比27.6%増）となりました。

報告セグメントの業績は次のとおりであります。

（セグメント別売上高）

セグメントの名称	売上高(百万円) (前年同四半期比)	セグメント利益又は損失(百万円) (前年同四半期比)
日 本	11,634 (100.5%)	△792 (前年同四半期△822百万円)
ア ジ ア	18,665 (103.1%)	2,126 (102.8%)
欧 米	476 (94.4%)	△219 (前年同四半期△268百万円)
調 整 額	—	1 (前年同四半期4百万円)
合 計	30,776 (102.0%)	1,116 (113.6%)

（日本）

アスレチックカテゴリーにおいては「ルコックスポルティフ」は好調に推移し、「デサント」は堅調に推移しましたが、「アリーナ」は苦戦しました。ゴルフカテゴリーにおいては「ルコックスポルティフ」が好調に推移しました。日本全体として売上高は堅調に推移し、損失は前年より縮小しました。

（アジア）

韓国においては「デサント」、中国においては「デサント」、「アリーナ」が好調に推移、香港、シンガポールにおいては「アリーナ」が堅調に推移しました。アジア全体として売上高、利益ともに前年を上回りました。

（欧米）

売上高は前年を下回りましたが、損失は前年に比べ縮小しました。

品目別売上高の状況は次のとおりであります。

（品目別売上高）

区 分	金 額	構 成 比	前年同四半期比
アスレチックウェア及びその関連商品	百万円 22,265	% 72.3	% 102.4
ゴルフウェア及びその関連商品	7,045	22.9	101.2
アウトドアウェア及びその関連商品	1,464	4.8	100.0
合 計	30,776	100.0	102.0

（注）上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(アスレチックウェア及びその関連商品)

アスレチックカテゴリーにおいては、「デサント」および「スキンズ」でプロバレーボールプレーヤー石川祐希選手とアドバイザー契約を締結しました。同選手を起用した店頭プロモーションなどの宣伝、販売促進活動を行い、一層のブランド認知度向上と、バレーボール事業の拡大を図っていきます。また、アメリカにおける「デサント」のアスレチックカテゴリーの事業拡大とゴルフカテゴリーの新規展開のため、現地の需要に応じた商品の企画、開発、販売を行うことを主な目的とした子会社「DESCENTE ATHLETIC AMERICAS INC.」を2018年3月に設立しました。商品の展開開始は9月を予定しています。「ルコックスポルティフ」においては、日本でのシューズの展開店舗が大幅に増加し、主力品番の「ローラン」や契約しているモデル・タレントのマギーさんとのコラボ商品の売上が好調に推移しました。また、5月20日から27日に開催されたサイクリングイベント「NTN presents 2018 Tour of Japan」のオフィシャルサプライヤーとなり、各ステージにおけるリーダージャージのサプライをしました。また応援する人向けのキャンペーンも実施し、ブランド認知度の向上に努めました。「アリーナ」においては、2018年8月9日より行われる「パンパシフィック水泳選手権大会2018」にゴールドパートナーとして協賛し、同大会を盛り上げるキャンペーンの実施、関連商品の販売など様々なマーケティング活動により、ブランド訴求を図っています。また、長谷川涼香選手（フィットネスクラブ東京ドーム／日本大学）と牧野紘子選手（フィットネスクラブ東京ドーム／早稲田大学）の2選手と新たに水着等のスポーツウェアに関するアドバイザー契約を締結しました。2018年4月3日から行われた第94回日本選手権水泳競技大会では両選手ともに好成績を収め、特に女性スイマーに対するブランドアピールに貢献しました。「アンブロ」においては、サッカー日本代表としても活躍した契約選手の柴崎岳選手と共同開発した「U by GAKU」コレクションが好調に推移し、ブランド価値の向上に貢献しました。

(ゴルフウェア及びその関連商品)

ゴルフカテゴリーにおいては、「マンシングウェア」の旗艦店を、2018年4月に東京・銀座にオープンしました。ゴルフウェアはもちろん、日常シーンでも着用していただけるウェアも新たに展開し、ゴルフを愛する人々の上質なクラブハウススタイルを提案しています。また、ベトナムに1号店を4月にオープンしました。引き続き2号店も7月にオープンし、東南アジアでの事業拡大を図っていきます。「ルコックスポルティフ」においては、2017年賞金女王に輝いた鈴木愛プロが6月に開催された「ニチレイレディス」にて今季4勝目をあげるなど契約選手が活躍しており、ブランド価値の向上に貢献しています。

その他のトピックスとして、2018年7月に大阪府・茨木市にてアパレルのR&Dセンターの稼働が開始しました。韓国・釜山広域市のシューズのR&Dセンターは2018年秋稼働の予定です。両R&Dセンターは、共通コンセプトを設定し、スポーツアイテムとして、様々な競技シーンにおいて使用者のパフォーマンスを引き出す高次元な機能性の開発およびそれを安定的に実現するための品質基準の制定を並行して行います。重点戦略の一つとして掲げている「モノを創る力」の向上に引き続き努めていきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産合計は109,386百万円となり、前連結会計年度末に比べ7,755百万円減少致しました。

流動資産は前連結会計年度末に比べ7,430百万円減少し、70,637百万円となりました。これは主に現金及び預金の減少5,351百万円、受取手形及び売掛金の減少3,487百万円、商品及び製品の増加1,361百万円などによるものです。

固定資産は前連結会計年度末に比べ324百万円減少し、38,749百万円となりました。

負債合計は前連結会計年度末に比べ4,714百万円減少し、33,551百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金の減少1,701百万円、賞与引当金の減少494百万円などによるものです。

純資産は前連結会計年度末に比べ3,040百万円減少し、75,835百万円となりました。これは主に利益剰余金の減少758百万円、為替換算調整勘定の減少2,422百万円などによるものです。

以上の結果、自己資本比率は前連結会計年度末に比べ2.0%増の69.3%となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループは、グループ組織再編を行い、株式会社デサントをグローバル本社とし、日本事業をデサントジャパン株式会社に分割した新体制での運営を2017年4月に開始しました。グローバル本社では、グローバルレベルでのブランド価値向上、各エリアの事業会社と連携した現地適応型のグローバル化を推進し、2020年度に目指す姿「VISION 2020」で掲げる「付加価値の高いブランドの複数展開により、アジアで事業を拡大し、グローバルスポーツカンパニーへと成長する」をビジョンとし、グループ全体での事業拡大を積極的に進めていきます。通期連結業績予想につきましては、2018年5月14日の決算短信で公表しました業績予想から変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	27,954	22,603
受取手形及び売掛金	21,852	18,364
商品及び製品	24,933	26,294
仕掛品	140	120
原材料及び貯蔵品	885	762
その他	2,391	2,567
貸倒引当金	△90	△76
流動資産合計	78,068	70,637
固定資産		
有形固定資産	22,156	21,725
無形固定資産		
のれん	905	857
その他	4,172	4,044
無形固定資産合計	5,078	4,901
投資その他の資産		
その他	11,941	12,213
貸倒引当金	△102	△91
投資その他の資産合計	11,838	12,121
固定資産合計	39,073	38,749
資産合計	117,141	109,386
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,705	16,003
短期借入金	521	151
1年内返済予定の長期借入金	359	364
未払法人税等	1,269	1,095
賞与引当金	901	407
返品調整引当金	849	872
その他	7,508	5,624
流動負債合計	29,116	24,518
固定負債		
長期借入金	4,659	4,536
債務保証損失引当金	413	413
退職給付に係る負債	995	1,065
その他	3,082	3,017
固定負債合計	9,149	9,032
負債合計	38,266	33,551

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年6月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,846	3,846
資本剰余金	25,223	25,223
利益剰余金	45,421	44,662
自己株式	△658	△658
株主資本合計	73,832	73,074
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	822	920
繰延ヘッジ損益	13	22
為替換算調整勘定	4,301	1,879
退職給付に係る調整累計額	△95	△62
その他の包括利益累計額合計	5,042	2,760
純資産合計	78,875	75,835
負債純資産合計	117,141	109,386

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年4月1日 至2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年6月30日)
売上高	30,180	30,776
売上原価	12,905	13,145
売上総利益	17,275	17,630
返品調整引当金繰入額	90	23
差引売上総利益	17,184	17,607
販売費及び一般管理費	16,201	16,490
営業利益	982	1,116
営業外収益		
受取利息	80	77
受取配当金	26	25
持分法による投資利益	8	22
その他	31	54
営業外収益合計	147	180
営業外費用		
支払利息	28	32
固定資産除却損	13	44
為替差損	8	21
その他	11	1
営業外費用合計	62	100
経常利益	1,068	1,196
税金等調整前四半期純利益	1,068	1,196
法人税、住民税及び事業税	439	604
法人税等調整額	△135	△383
法人税等合計	304	220
四半期純利益	764	975
親会社株主に帰属する四半期純利益	764	975

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
四半期純利益	764	975
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△37	97
繰延ヘッジ損益	△2	9
為替換算調整勘定	1,244	△2,371
退職給付に係る調整額	26	33
持分法適用会社に対する持分相当額	46	△51
その他の包括利益合計	1,277	△2,282
四半期包括利益	2,041	△1,306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	2,041	△1,306

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

税金費用の計算

一部の連結子会社について、税金費用は、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

なお、当該連結子会社の法人税等は、法人税、住民税及び事業税に含めて表示しております。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,573	18,102	504	30,180	—	30,180
セグメント間の内部売上高 又は振替高	331	113	15	460	△460	—
計	11,905	18,215	520	30,640	△460	30,180
セグメント利益又は損失	△822	2,069	△268	978	4	982

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額4百万円には、セグメント間取引消去13百万円、棚卸資産の調整額△8百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年6月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 2
	日本	アジア	欧米	計		
売上高						
外部顧客への売上高	11,634	18,665	476	30,776	—	30,776
セグメント間の内部売上高 又は振替高	210	156	18	384	△384	—
計	11,844	18,821	494	31,160	△384	30,776
セグメント利益又は損失	△792	2,126	△219	1,115	1	1,116

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額1百万円には、セグメント間取引消去8百万円、棚卸資産の調整額△6百万円を含んでおります。

(注) 2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

3. 補足情報

海外売上高

前第1四半期連結累計期間（自 2017年4月1日 至 2017年6月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	18,182	205	678	19,066
II 連結売上高				30,180
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	60.2	0.7	2.2	63.2

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第1四半期連結累計期間（自 2018年4月1日 至 2018年6月30日）

（単位：百万円、％）

	アジア	北米	欧州その他の地域	計
I 海外売上高	18,959	173	367	19,499
II 連結売上高				30,776
III 連結売上高に占める 海外売上高の割合	61.6	0.6	1.2	63.4

（注）売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。